

※我が国におけるモビリティマネジメント施策が、効果的・広範に推進させることを目指して、行政、大学、コンサルタント、市民団体等の関係者が一堂に会する会議。今年度は9月12日(金)から13日(土)に札幌コンベンションセンターで開催される。

1. 発表タイトル

全国初の県全域における小学生バス無料デーの実施
～ハッピーライド in 静岡プロジェクト～

2. 発表概要

a) 背景と目的

令和6年3月に策定した本県の地域公共交通計画では、計画目標の一つである「公共交通の利活用促進」を達成するため、自家用車から公共交通への利用転換につながる啓発イベントを実施することとしている。今回、県民のバス利用を促進するためのイベントとして県内の全ての小学生を対象にバス無料デーを初めて開催した。

b) プロジェクトの内容

国、県、市町、県バス協会、バス事業者等で構成する実行委員会を組織し、県内ほぼ全ての路線バスやコミュニティバスによるバス無料デーを実施した。特別支援学校や外国人学校を含む全小学生を対象とする全県規模の取組は全国初と認識している。また、本イベントをさらに盛り上げるため、バス路線沿線の施設に家族で出かけられるタイアップイベントの開催や来場特典をつけてもらえるような連携も行った。

c) 効果

小学生を無料にすることでバス事業者の運賃収入の減少が懸念されたが、有料の保護者等が同行したことから、利用者は前週、翌週と比較し全体として増加し、運賃収入が増加した路線も多い。また、小学生や保護者、乗務員へのアンケートを通じてイベントの効果を調べたところ、小学生について、次回無料デーがあれば乗ってみたいという回答が6割以上、無料デーでなくても乗ってみたいという回答が約8割を占めたことから、本イベントがバスへの関心の向上や利用意識の醸成に寄与したと言える。

d) 結論

バス無料デー（乗車を体験する機会の提供）と、その周知広報やアンケート（考える機会の提供）によって、県民のバス利用の促進に対して一定の効果があったと考えられる。利用者の意識や行動スタイルは一度の啓発イベントで急激に変わるものではなく、定期的に取り組むことで徐々に変容し定着していくと考えられる。利用者の増加につなげるためには、本イベントの継続実施が必要と考えられる。

3. キーワード

学校教育MM、バス利用促進、地球温暖化対策、態度・行動変容分析

4. MMで使ったツール展示の希望

希望しない

5. 発表者・連名者の氏名・所属／勤務先

榊原秀作・静岡県 交通基盤部 都市局 地域交通課

松本幸正・名城大学 理工学部